



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2016年8月発行（第76号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ：「馬のくつわに関する奥義」 エレミヤ

◎証：「時代を見分ける」 H.F

◎お知らせコーナー 「本の紹介」

【巻頭メッセージ】

「馬のくつわに関する奥義」 by エレミヤ

本日は、「馬のくつわに関する奥義」という題でメッセージをしたい、と思います。以下の黙示録の箇所に記載されている「馬のくつわ」の意味合いを考えてみたい、と思うのです。

黙示録14:18 **すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」**

14:19 **そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。**

14:20 **その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。**

ここでは、神の激しい怒りの大きな酒ぶねから流れ出た血が「馬のくつわ」に達したことが書かれています。しかし、馬のくつわ、とはあまり聞かない表現です。洪水の水が流れ出て堤防を越えた、などの表現なら普通の表現ですが、馬のくつわとはあまり聞かない独特の表現です。何かこのことばに隠れた意味合い、御国の奥義があるかもしれません。それを考えてみたい、と思うのです。主は御国の奥義に関してこういわれました。

マタイ13:10 **すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたとえでお話しになったのですか。」**

13:11 **イエスは答えて言われた。「あなたがたには、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていません。」**

主はここで、天の御国の奥義といわれる特別な奥義が存在すること、そして、その奥義は、たとえにより、人々から隠されていることを語っておられるのです。ですから私たちにあっては、是非馬のくつわに関するたとえを理解し、そこに隠されている奥義があるなら、それを理解したいと思うのです。

<馬のくつわは教師をさすたとえ>

馬のくつわ、ということばは、実はヤコブ書にも使われています。以下の通りです。

ヤコブ3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

3:3 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。

ここでは、教師とその裁きと関連して「馬のくつわ」ということばが使われています。ですので、馬のくつわとは教師をさす表現、たとえであることが類推できるのです。

馬のからだ全体は、教会全体のたとえ、また馬のくつわは、それを導く教師のたとえなのです。このヤコブ書の箇所を通してさらに教師に関して聖書の語っている警告を見ていきましょう。ヤコブ3章の箇所を順に見ていきましょう。

ヤコブ3:1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。

ここでは、教師が格別きびしいさばきを受けるようになることが描かれています。ですので、このヤコブ書3章の主題は教師に関することであり、間違えた教師を通して起きる災い、さらに教師自身が受ける裁きに関して

語られている箇所なのです。

3:2 私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

ここでは、教師に関連してことばの上での失敗に関して書かれています。ことばとはギリシャ語でlogosと書かれています。これは、聖書のことばをさす原語でもあります。すなわち、ここでは神のことばである聖書に関する誤りに関して書かれています。

すなわち、教師に関する誤りとはことば、神のことばである聖書に関する誤りであることがわかるのです。具体的には教師が神のことばを正しく理解せず、教会の会衆を誤りに導くという失敗に関して書かれています。たとえば、今の時代の教師たちは終末のみことばを正しく理解せず、終末の日に災いに会うのはユダヤ人だ、などと語ります。教会やクリスチャンは終末の日に災いにも裁きにも会わない、と語ります。この様な的外れな解釈はそのことばに関する誤りの一つです。

3:3 馬を御するために、くつわをその口にかけて、馬のからだ全体を引き回すことができます。



馬のくつわは教師のたとえ

ここでいう馬のくつわは教師のたとえです。馬のからだ全体は教会全体のたとえです。大きな馬が小さなくつわを通してコントロールされるように、教会も一人の教師により、影響を受け、コントロールされます。たとえば、ローマ法王が「地獄はない」などと偽りを語るとカソリック教会全体が真理から離れ、惑わされていくのです。

3:4 また、船を見なさい。あのよう大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。

ここでは、教師は船の舵にたとえられています。小さなかじが大きな船の方向を変えることができるように一人の教師が大きな教会の方向を定めます。

たとえば、牧師が惑わされてベニーヒンをすばらしい神の器である、などと崇拝すると教会全体も惑わされて、ベニーヒンの集會に出席し、彼から悪霊の按手を受けるようになったりするのです。

3:5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさい。あのよう小さい火があのような大きい森を燃やします。

3:6 舌は火であり、不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。

ここでは、教師は舌にたとえられています。からだ全体は教会のたとえです。そして、ここでは、さらに明確に教師を通して教会にもたらされる災いに関して語られています。

舌は、「からだ全体を汚し、人生の車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。」とはこういうことです。すなわち舌にたとえられる教師を通して、教会全体が汚さ

れ焼かれ、さらにゲヘナ、地獄にまで落とされてしまう、という恐るべきことがらが書かれているのです。

恐ろしい記述ですが、このことはしかし、事実です。教師が惑わされて聖書で禁止されている同性愛を受入れたりすれば教会全体が同性愛を受入れ、ソドムの様な教会になり、確かに教会全体が汚されるようになります。そして、同性愛は神のことばで禁止されていることがらですから、この様な罪を受入れた教会の信徒たちはみな、その日神により罪を問われ、ゲヘナの火に入るようになるのでしよう。

さらに火は、霊的なことがらをあらわすたとえでもあります。教師がペンサコーラの悪霊リバイバルの霊を受けて、教会でメッセージをすれば、会衆一同が火で焼かれ、悪霊の火で焼かれるようになるのです。教師を通して会衆が地獄へ入る？これは悪い冗談の様に聞こえるかもしれませんが、聖書に書かれたことばですから、真面目に考えて見ましょう。実はこのこと、教師を通して会衆がゲヘナ、地獄へ落とされる、ということは他でもない主ご自身が語られていることでもあります。以下を見てください。

マタイ23:15 忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができる、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。

ここでは教師である律法学者、パリサイ人たちが誤ったために彼らによって教えられた人々がゲヘナ、地獄の子になることが書かれています。ゲヘナの子なのですから、死後天国ならぬ地獄へ直行するようになるのでしよう。恐ろしいことですが、主ご自身が語られたことなのですから、これは真実なのでしよう。いかに惑わされた教師が災いになるのかがわかります。

ヤコブ 3:9 私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。

3:10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あつてはなりません。

3:11 泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。

3:12 私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりするようなことは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこともできないことです。

ここでは同じ一人の教師を通して、賛美と呪い、その両方が出てくる、ということが語られています。このことは事実であり、同じ一人の教師を通してあるときは神への賛美、祝福を受けます。また時には同じ教師を通して呪いや苦い水を受けるようになるのです。

すなわち、同じ教師を通して、ある時は聖霊が下されます。しかし、同じ教師を通してある時はペンサコーラの霊の様な悪霊が下されるのです。このことは事実です。あるときは祝福、あるときは呪いを同じ教師を通して受けるのです。それをさして、「泉が甘い水と苦い水を同じ穴からわき上がらせるというようなことがあるでしょうか。」と語られているのです。そして、このことはあるべきではありません。

教師となったなら、その人はいつでも聖霊の器となるべく、心がけるべきなのです。悪霊や、苦い水を下すべきではありません。

3:14 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。

3:15 そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。

ここでは、教師が真理に逆らって偽ること、さらに神からの知恵でなく、悪霊からの知恵を講壇で語る危険について語られています。

あつてはならないことですが、講壇の上から神のことばに逆らうような悪霊の知恵に基づいた教理が教師によって語られる、ということは今の時代においてよくあることなのです。

たとえば、19世紀に教会に入ってきた、J.N. ダービーの艱難前携挙説、この説などはまさに悪霊の悪知恵に満ちた教えです。この教理を受入れたゆえに今の教会もクリスチャンもみな、終末の艱難に対する備えを失ってしまったからです。

また、ヤベツの祈りは魔術の原則を奨励する本です。魔術の祈りとは、同じことばを何度も何度も用いて繰り返して祈り、神に強制する祈りだからです。このようにして悪霊の知恵は教会で用いられています。さて、冒頭の黙示録のテキストに戻りましょう。

“14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。”

この箇所を順に見ていきたい、と思います。

14:18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟しているのだから。」

14:19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集めて、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。

ここではぶどうに関して書かれています。ぶどうは以下の様にキリストと関係のあることばであり、教会やクリスチャンと関係のあることばです。

ヨハネ 15 : 1 「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。」

そして、ここでは、そのぶどうが集められて神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れられたことが描かれています。背教の教会やクリスチャンへの裁き、罰が行われることが暗示されるのです。

ですので、終末の日には背教の教会やクリスチャンに対して厳しい裁き、罰が下されるようになることを知しましょう。

14:20 その酒ぶねは都の外で踏まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。”

この箇所には馬のくつわが出てきます。そして馬のくつわは今まで見てきたように明らかに教師をさすたとえです。そして、ここでいわれている主旨はこうです。終末の日、黙示録の日には、神の怒りや裁きや罰は馬のくつわ、すなわち教師にまで至ることがたとえで語られているのです。そうです、この箇所

では「馬のくつわに血が達する」との記述を通して、終末の日に教師への裁き、罰が下されることが暗示されているのです。

はっきりいいます。その罰は、かつての偽善教師であるパリサイ人、律法学者に語られたように、ゲヘナ、地獄に達する恐ろしい罰となるでしょう。

ですので、僭越ですがみことばの奉仕に携わる人に対して私は語ります。神の働き、神のことばに連なる奉仕を我々がになっているなら、それは感謝です。しかし、語ることばに気をつけこの奉仕に関して神への恐れを持つべきなのです。

クリスチャンは決して地獄へ行くことなどはない、まして牧師はありえない、などの妄言を信じてはいけません。主が教師である律法学者や、パリサイ人に対して、ゲヘナに行くことを警告したなら、今の時代の教師もその奉仕しだいでゲヘナ、地獄に入る可能性があるのです。

ですから主を恐れ、この方のことばを忠実に語れるよう、つとめましょう。いつまでも艱難前携挙だの、2段階携挙だののインチキ話を語るべきではないのです。—以上—



船の舵は教師のたとえ

ルカ 12 : 56 ~ 57

あなたがたは、地や空の現象を見分けることを知りながら、どうしていまのこの時代を見分けることができないのですか。また、なぜ、自分から進んで、何が正しいかを判断しないのですか。

「時を見分けよ。」と主イエスは言われました。では今の時代はどういう時なのでしょう？もうすぐルターの宗教改革から500年になるので、いろいろな行事が行われています。約500年前に、聖書の御言葉からかけ離れてしまったカトリックに対し、聖書に忠実であろうとしたプロテスタントの歴史が始まったのです。現在の教会現状を見ていきたいと思えます。

ルターの宗教改革 500 年行事の記事。クリスチャン・トゥデイより。

・バチカンとルーテル世界連盟、17年に「宗教改革500年記念」。ルーテル世界連盟とバチカンは2013年6月17日、共同文書「争いから交わりへ」を発表した。(2013年6月記事)

・2017年ルター宗教改革500年、WCC(世界教会協議会)エキュメニカルセンターで記念行事を計画(2012年11月記事)

500年前にカトリックから離れたプロテスタント教会が、カトリックと合同する働きを進めています。今でもカトリックの教理とプロテスタントの教理は、一致していません。カトリックの教理は、聖書に忠実であるプロテスタントには相容れないところがあります。しかし、対立は良くないので違いには目をつ

ぶって合同していきましょう、というエキュメニカル運動が盛んになっているようです。確かに対立は良くないでしょう、合同することは、寛容で人間的にはとても良いことに見えます。

でもイエスはどう思われるのでしょうか？マルコ7：7～8でイエスは「この民は口先ではわたしを敬うがその心は、私から遠く離れている。彼らがわたしを拜んでも無駄なことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。あなた方は、神の戒めを捨てて人の言い伝えを堅く守っている。」といわれます。イエスは、その当時の宗教指導者たちに対し、神の言葉よりも人間の考えを優先している。と言われたのです。このことは、昔の人にだけ言えることなのでしょうか？

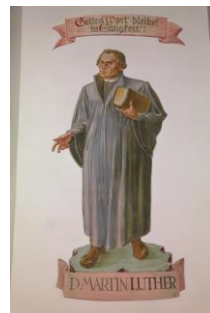
対立しないでみんな認め合うことは、人道的でとてもいいことです。でも、人の考えと神様の考えは違います。聖書の言葉と違うことならば、神様の言葉を優先することが大切であるとイエスは言われています。

神様よりも人間の思いを優先したペテロにイエスは「下がれ、サタン。あなたは、神の事を思わないで人の事を思っている。」と言われました。筆頭弟子のペテロにさえ、イエスはとても厳しい言葉をかけられました。ルターは「バビロニア捕囚」という本を書いています。バビロン捕囚は、旧約聖書の出来事です。神の民が、背教の故に、約束の地から引き抜かれ異国に捕囚された悲劇です。ルター自身は、バビロン捕囚が歴史上の事だ

けではないと認識しており、当時のカトリックがバビロンであると考えたと思われます。同じく、現在の私達もバビロン捕囚を過去の事だけにしないことが大事でしょう。聖書の最後は、黙示録であり、ヨハネが、これから起こることを啓示されたものです。黙示録にはバビロンという言葉が頻繁に出てきます。ヨハネの時代から約2000年たちました。ヨハネの頃に、未来であったこと、啓示された事は、今でも遠い将来の事なのでしょう。か？むしろ、今こそ、ヨハネが啓示された時代ではないでしょうか？バビロンは他人事ではないのです・・・。

主イエスは、ルカ12：56～57で時を見分けなさい、といわれました。御霊によって悟ること、人間的な考え中心に陥らず、神の言葉に正しく立つことが大切だと思います。当時の宗教指導者たちは、メシヤが来た時を悟ることができませんでした。人間の考えを、理屈を中心に据えたのです。彼らはイエスが言われた通り盲目な教師です。そして、盲目の教師についていった群衆たちも悟らず、共にイエスを十字架にかけました・・・このことを、当時の愚かな人たちがしたことだ、と済ますことはできません。これは、私達への警告でしょう。旧約聖書の出来事も同様です。旧約は、新約の影、型、とも言われています。単に歴史であると考えることなく、今の私達への警告が含まれていると考えるべきではないでしょうか？マタイ16：6で、イエスは、「パリサイ人やサドカイ人達のパン種に注意して、気をつけなさい。」と言われました。神の言葉より、人間的な考えを優先した当時の指導者の教えに気をつけなさいと言われたのです。

では、今の時代はどのようなのでしょうか？今、教会では、同性愛を受け入れる動きがあります。またエキュメニカル運動も盛んです。艱難前携挙説という、12使徒たちが思いもよらなかった教理がいきわたっています・・・。種なしパンではなく、パン種で膨らんだパンのようです・・・。今がまさに、バビロン捕囚の時代になっているのではないのでしょうか？では、バビロンはどこなのでしょう。かつて、圧倒的な力を誇った国バビロン。今、世界において1国で全世界の40パーセントもの強大な軍事力を持ち、大きな影響力を持つ国があります。アメリカです。そして、アメリカの教会は世界のプロテスタント教会の中心的立場であり、世界の教会に大きな影響力を持っています。そして、おかしな教理はアメリカ由来です。アメリカの教会こそ現代のバビロンと考えることができないでしょうか？アメリカ由来の教会のトレンド、教理の影響を受けていると、知らない間にバビロン捕囚されていることになっているとしたら・・・。神様の約束の地から引き抜かれていることになっているとしたら・・・。時を見極めていくことが大切なのです。奉仕をする事が仇になり、永遠の命を失う時代に入っていくことを、明らかに聖書は語っています。ゆえに、気を付けていきたいと思えます。



マルチン・ルター

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



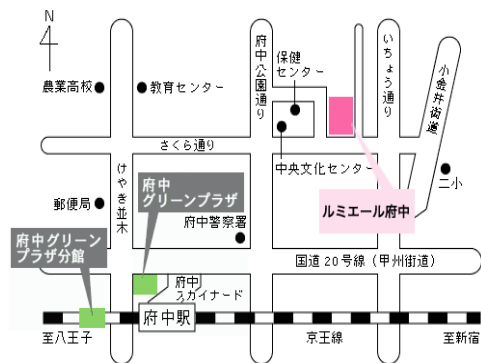
定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>